ヘルスケア事業（HCB）

ドメイン　ヘルスケア

該当するSDGs項目

ヘルスケア事業は、「地球上の一人ひとりの健康ですこやかな生活への貢献」をミッションに、誰でも簡単・正確に測定できる使いやすさと、医療現場からも信頼される精度にこだわり、商品やサービスを開発。血圧計や体温計、喘息治療薬を吸入するための機器であるネブライザなど、各国の医療機器認証を取得したデバイスと、国ごとに異なる社会インフラや医療システムに対応したサービスを、世界110ヵ国以上で展開しています。

執行役員常務
オムロン ヘルスケア株式会社
代表取締役社長
荻野 勲

脳・心血管疾患の発症をゼロにする「ゼロイベント」の実現

高血圧患者は世界に約10億人、日本には約4,300万人いるといわれています。高血圧の恐ろしさは、症状がないまま進行し、脳卒中や心筋梗塞など重篤な脳・心血管疾患を引き起こす原因となることです。

オムロンは、これらの重篤な疾患を発症させないために40年以上も前から、医療関係者とともに家庭での血圧測定を提唱し、家庭血圧を活用した高血圧症の治療および予防の啓発と普及に取り組んできました。しかし、現在でも世界の死因の第一位は虚血性心疾患、第二位は脳卒中です*。

そこで、私たちは2015年に循環器疾患事業の事業ビジョンに「脳・心血管疾患の発症をゼロにする（ゼロイベント）」を掲げ、高血圧症の治療および予防に有用なデバイスやサービスをグローバルに提供しています。

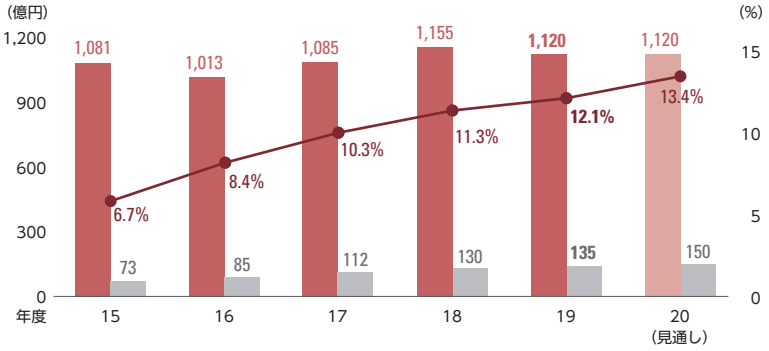
近年では、気になった時にいつでもどこでも簡単に血圧を測定できる腕時計型のウェアラブル血圧計や、家庭で手軽に心電図を取れる心電計付血圧計など、革新的なデバイスを発売しました。これらのデバイスは、いずれも医療機器認証を取得しており、疾病の診断や治療に活用できる医療精度での測定を実現しています。また、2016年からは、家庭での測定データをスマートフォンで簡単に記録・可視化することができる健康管理アプリ「オムロンコネクト」をグローバルに提供。その累計ダウンロード数は190万件を超えています。さらに、このデータは世界中のサービスプロバイダーのアプリでも活用されています。将来の医療システムやコーポレートウェルネスの進化に対応するために、これらのデバイスやデータを使った遠隔診療支援サービスや特定保健指導支援サービス、生活習慣改善支援サービスなど、慢性疾患の重症化を防ぎ、治療をサポートするためのサービスを開発し、グローバルでの社会実装にチャレンジしています。

世界中で拡大している新型コロナウイルス感染症は、社会インフラや人々の価値観、生活様式に大きな影響を与えています。このような変化の中において、あらためて私たちが提唱し続けてきた「家庭での健康管理の重要性」が再認識されています。さらに、医師や医療リソースの不足や、通院による二次感染の拡大防止といった新たに生まれてきた課題に対し、パートナー企業とも積極的に連携し、新しいサービスを創出していきます。

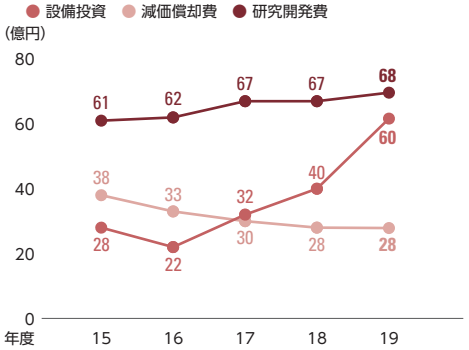
* 出典元 World Health Organization『The top 10 causes of death』

事業ハイライト

売上高 / 営業利益 / 営業利益率



設備投資 / 減価償却費 / 研究開発費

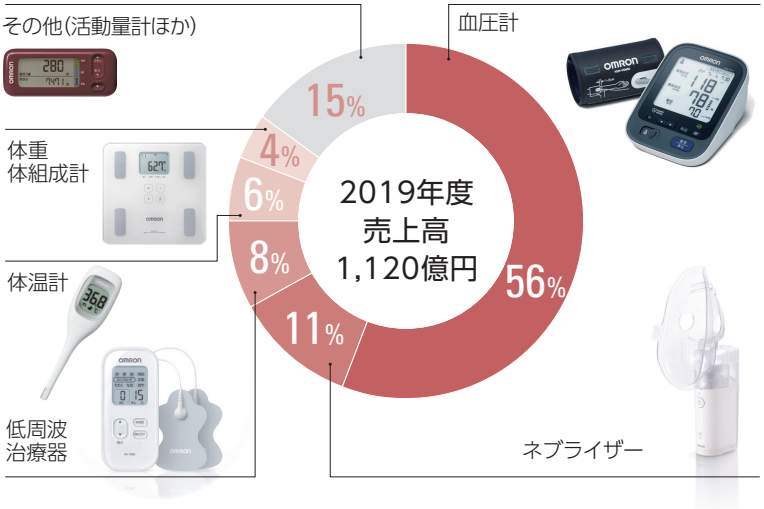


2019年度業績と2020年度計画

2019年度は、中国、欧州、アジアでの血圧計の需要は堅調に推移しました。一方、国内では消費税増税などにより需要が伸び悩み、北米では米中貿易摩擦による影響で需要が減少しました。また、第4四半期にはグローバルに新型コロナウイルスの影響を受けました。これらに加えて、円高による為替の影響を受けて、売上高は前期比で減少しました。為替の影響を受けながらも生産性向上と固定費の効率的な運用などにより、営業利益は前期比で増加しました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によってグローバルで人々の健康管理ニーズが高まり、血圧計・体温計の需要が増加するものと見ています。また、外出制限などが継続する中で、オンラインチャネルでの販売を拡大します。一方で、円高による為替の影響も見込んでいます。これらの結果、2020年度の売上高は前期比で横ばいを見込みます。高付加価値商品の販売増加による売上総利益率の改善などにより、営業利益は前期比で大幅な増加を見込みます。

商品別売上構成比



サステナビリティ課題の進捗

解決すべき社会的課題	2020年度の目標
●高血圧由来の脳･心血管疾患発症の増加 ●全世界で増加する喘息などの呼吸器疾患	●血圧計販売台数:2,500万台/年 ●血圧変動を連続的に把握できる解析技術の確立 ●ネブライザー+喘鳴センサー販売台数:765万台/年

2019年度の進捗

INPUT

- 従業員数：3,758人
- 研究開発費：68億円
- 設備投資：60億円
- 事業展開国数：110カ国以上

OUTPUT

- 売上高：1,120億円
- 営業利益：135億円
- 血圧計販売台数：2,001万台
- ウェアラブル血圧計による臨床試験開始
- ネブライザー+喘鳴センサー販売台数:344万台
- ゼロイベントの実現に向け、革新的なデバイスやサービスの創造だけでなく、医療関係者や消費者への啓発活動を精力的に推進
- 新興国(特にインド)における家庭血圧測定普及の活動推進:インドにて、ドクター向けの教育プログラム「オムロンアカデミー」を12か所実施。消費者向け血圧測定会を10都市にて実施

OUTCOME

- 新興国(特にインド)における家庭血圧計測普及による脳・心血管疾患発症者の低減

SDGs ゴール3.4.1

誰もが高血圧診療を継続できる社会を目指して

世界規模での新型コロナウイルス感染症の拡大により顕在化した新たな課題は、グローバルで遠隔診療サービスの普及をさらに加速させています。特に高血圧や糖尿病などの慢性疾患を持つ患者は継続的な通院・治療が必要な一方で、新型コロナウイルス感染症に罹患すると重症化するとも言われており、従来の定期的な通院を見直す動きもでています。

オムロンでは、血圧計や心電計、体重体組成計などを用いて測定した家庭でのバイタルデータをタイムリーに医師と共有。自宅や医療機関などの場所を気にすることなく、医師の適切な診断と治療を受けることができる遠隔診療サービスの開発に取り組んでいます。慢性疾患における疾病管理と予防医療への貢献を目指し、これからのニューノーマル時代に向けた新しい遠隔診療サービスの在り方をグローバルに提案しています。

高血圧患者用の遠隔モニタリングシステム

遠隔診療サービスの取り組みの１つである、高血圧患者向けRemote Patient Monitoringシステム「バイタルサイト（以下　VitalSight™）」の運用が、北米で最も名高い病院の一つ、ニューヨークのマウントサイナイ病院にて2020年8月にスタートしました。「VitalSight ™」は、患者が家庭で測った毎日の血圧や体組成データを、専用の通信ハブやオムロンの健康管理サービス「オムロン　コネクト」を使って病院の電子カルテに送信し、医師や看護師と共有するRPMシステムです。「VitalSight™」を導入することで医師や看護師は患者の状態をタイムリーに把握でき、より効果的な治療が可能になります。また、患者は毎日のバイタルデータを医師と共有することで、治療への参画意識が高まり服薬コンプライアンスの向上や治療の継続につながります。

オムロンでは、高血圧遠隔診療が、米国の65歳以上が加入できる公的医療保険メディケアにおいて保険償還される動きに対応し、米国でのデータサービス事業の強化を進めてきました。今後は、成人の２人にひとりが高血圧という北米において、遠隔モニタリングシステムを使った新たな高血圧治療の在り方を提案していきます。

遠隔診療サービスを受ける様子(イメージ図)

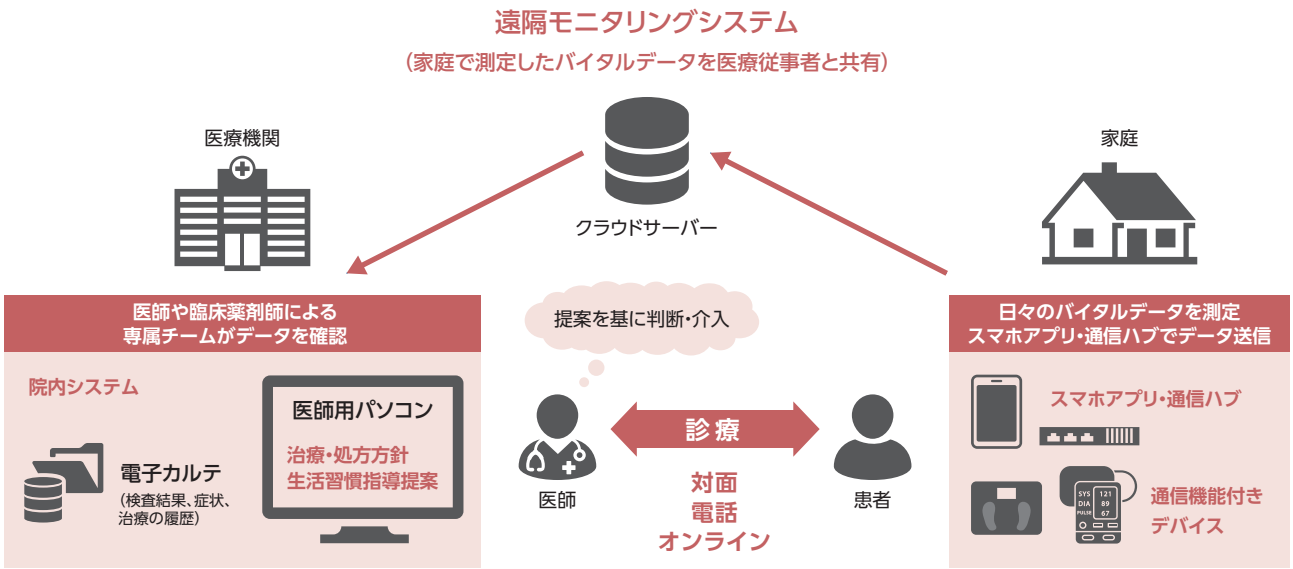
バイタルサイト患者用キット一例

オンラインによる高血圧診療支援サービス

日本では、「対面診療の補完」としてオンライン診療が位置付けられています。現在、4,300万人いるといわれている高血圧患者のうち、治療中かつ血圧が適正にコントロールされているのは全体の27%（1,200万人）にとどまり、治療中だがうまく血圧がコントロールできていない人は29%（1,250万人）、高血圧と知りながら未治療の人は11%（450万人）、高血圧と気づいていない人は33%（1,400万人）います。このうち、血圧を適正にコントロールできていない、高血圧という自覚があるが治療を受けていない層において、高血圧治療を中断した要因として、「高齢者の通院負荷」や「働き盛り世代における通院時間の確保」があげられています。この課題の解決に向けて、2019年5月より、一般社団法人テレメディーズと業務提携を行い、オンラインによる高血圧診療支援サービス「テレメディーズBP™」をスタートさせました。このサービスは、日々の血圧管理から、診療の予約、診察、薬の受け取り、医療費の支払いまでを自宅や職場にいながらすべてワンストップで済ませることができるサービスです。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、日本においても遠隔診療の有用性が広く認知され、規制緩和が期待されています。

オムロンは将来の高血圧医療の姿を見据え、日本のみならず、欧米やアジアにおいてよりよい高血圧治療に貢献するデバイスとサービスの開発を加速していきます。

遠隔モニタリングシステムの概要



米国で遠隔モニタリングシステムを担当する社員のコメント

オムロン ヘルスケア（米国）
バイタルサイトクライアント
サクセスマネージャー
アドリアナ・ベナッシ

グローバルに拡大している遠隔診療へのニーズに対応し、医師、患者、双方にとって効果的で効率的な高血圧治療の革新的なソリューションを提案するために、米国の新規事業開発チーム主導で高血圧患者向けRPMシステム「VitalSight™」の開発を進めてきました。

この誰もが経験したことがない新型コロナ感染症の拡大のもと、患者と医師が血圧値を共有することによって、高血圧患者が安心して治療を継続することができる「VitalSight™」の役割が一層重要性を増し、1日も早い立ち上げが急務となりました。そこで、8月のサービス運用開始に向けて、オムロン ヘルスケアの新規事業開発チームとマウントサイナイの多くのチーム、特にポピュレーションヘルスチームと臨床薬剤師チーム、医師およびプログラム管理チームが一丸となって取り組みました。医師も患者もより積極的に高血圧治療に関わり、脳梗塞などのイベントが発症する前に介入することで、私たちの目指す「脳・心血管疾患の発症ゼロ」の実現に貢献できると確信しています。今後は、より多くの医療パートナーとの連携を広げるとともに、オムロン ヘルスケアが取り組む遠隔診療サービスを牽引するサービスモデルとなるよう、チャレンジを続けていきます。

米国で遠隔モニタリングシステムを導入した病院からのコメント

「VitalSight™」は、特にこのコロナ禍において、非常に重要な意義があります。「VitalSight™」では、家庭で測った患者のバイタルデータを医師と共有することができます。しかも、患者のIT知識に関係なく、簡単にデータ通信を行えるデータハブを用意しているので、誰もが使える、患者を第一に考えたシステムです。医師は患者のバイタルデータをリアルタイムに把握できます。当院では、臨床薬剤師による専属チームがついて、日々プログラムの進捗と経過を管理し医師と連携しています。今回のオムロン ヘルスケアとのコラボレーションにより、患者は自分自身の疾病管理により積極的になり、医師は必要に応じて患者に介入できるので、個人にあった治療をタイムリーに提供することができるのです。

マウントサイナイ病院　シニア・バイス・プレジデント アンド チーフ・メディカル・オフィサー　**ロブ・フィールズ医師**